

■ 編集後記

編集委員長 石垣 (20期)

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老をむかふる物は、日々旅にして、旅を栖とす。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへ、昨年の・・・

あの有名な奥の細道の序文です。この文を読むと、芭蕉のように風に誘われて“ふ～っと”（芭蕉は山に行ったのではありませんが）山に行きたくなりますよネ。この自然との触れ合いは我々の活動に通じるところがあり、更に「漂泊」はまさにワンダリングではありませんか。さあ、皆さん、「片雲の風に誘われて」ワンダリングに出かけましょう。この山行集がその助けになれば幸いです。

勿論、この山行集の使い方は自由です。過去のOB山行の思い出にふける思い出集として、新たな山行計画の参考にする山行ガイドブックとして、写真から仲間の若かりし顔を探す、逆に長年会っていない仲間の最近の顔を探すための写真集として使ってみて下さい。また、OB山行委員会の生い立ちを知ったり、小野さんの長年の苦勞に感謝してみるのはいかがでしょうか。色々な使い方を考えてみてください。本棚に綺麗にしまってあるよりは、何回も見て・読んで・使ってもらい、この山行集がクシャクシャになっていることの方が編者の望みです。

今回は初の試みとしてOB山行委員会と編集委員会が共同編集をして山行集を作成しました。ふとした思いつきからこの山行集の編集責任者になりましたが、編集作業をすればするほどOB山行の奥の深さ、素晴らしさを肌で感じる事ができました。OB山行の運営にご尽力された皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。

今後もOB会の活動が永く続き、OB山行の回数も重ねてゆき、記念山行集が何回も作られることを祈念して編集後記とさせていただきます。

